



# 春の息吹

奥羽山脈の雪水は優しいせせらぎとなり、豊かな耕土を潤し、草花や虫たちを揺り起こしながら松島湾に流れ入ります。忘れかけていた春色の花木に人々が笑顔をはころばせ、街道から見下ろす松島湾の浅瀬では、あざり採りの家族で賑わいま

す。遠くに浮かぶ白い遊覧船の上をかもめたちが舞い飛び、楽しいなわむれの行方に伸びる眩い航跡は、生きたように幾千もの輝きを放ちます。絵心を誘うような春の薫りは、心の隅々にまでほんのりと漂ってきます。



# 夏の歓喜

俳聖松尾芭蕉がこの地を訪れた季節。古えより、夏の松島には人々のこころをいざなう不思議な魅力があります。濃淡鮮やかな青い空に浮かぶ夏の綿雲。新芽の緑に染まる老い松をたたえる島々。まっすぐな夏の陽に明るく色づけられた遠浅な松島湾・・・

夕刻にお部屋の窓を開ければ、島々の間を縫って吹く汐風が、湯上りの体を優しく癒してくれます。そんな旅情のひとつとき、湾内の小さな島から上がる祭花火に出逢えれば、格別な夏の歓びを感じていただけることでしょう。



# 秋の穏景



湾にたち込める秋霧と頬をなぞる風が、その移ろいを感じさせる頃、蟬の声はひそまり鈴虫のそれにかわっていきます。盛夏を山で過ごした秋茜は、松島のみみじにその間合いを伝えるがごとく、この地へ降りてきます。陽が傾けば空も海も琥珀に輝き、長い宵

月夜には、柔らかな月光が松島湾に染み入るように注がれます。秋の松島ではそんな素朴な風景をご覧いただけます。等しいはずの時の流れも、ここ松島ではいつもと違う時間を実感いただけることと存じます。



# 冬の幻想

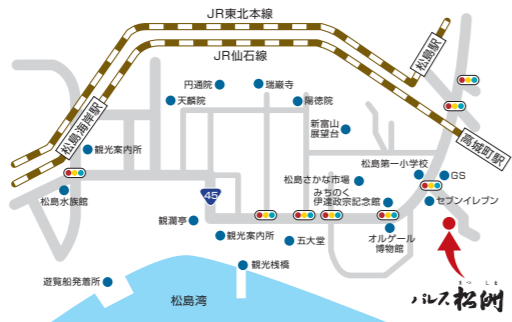
もっとも松島らしい趣を観ていただける季節。冷たく張りつめた空と海の向こうから眩い朝日がゆっくと昇る。さまはまさに荘厳です。東に見える四大観大高森の稜線をなぞるように昇る深紅の太陽に向き合えば、時間は止まったかのよう・・・

湾に浮かぶ自然の造形すべてが漆黒になり、この時しか見られない松島湾の影絵に出逢えます。陽が高くなるにつれ、色を取り戻したその景色が雪景の松島なら、その静かな幻想はまだまだ続くことでしょう。



## 松島の想い出

| 県外からのアクセス |       | 交通のご案内            |        |
|-----------|-------|-------------------|--------|
| お車で       | 東京    | 東北自動車道約4時間        | 仙台南IC  |
|           |       | 南部道宮三陸自動車道約40分    | 松島海岸IC |
|           |       | 松島海岸IC            | 約10分   |
| JRで       | 盛岡    | 東北自動車道約2時間        | 大和IC   |
|           |       | 約30分              | パレス松洲  |
|           | 仙台    | 約40分              | パレス松洲  |
| 飛行機で      | 東京    | 東北新幹線約2時間         | 仙台     |
|           | 仙台駅   | 仙石線23分            | 松島海岸駅  |
|           |       | 徒歩30分             | パレス松洲  |
|           | 仙台駅   | 仙石線27分            | 高城町駅   |
|           |       | 徒歩15分             | パレス松洲  |
|           | 仙台駅   | 東北本線25分           | 松島駅    |
|           | 徒歩10分 | パレス松洲             |        |
| 飛行機で      | 仙台空港  | 車で東部道路 三陸自動車道約40分 | 松島海岸IC |
|           |       | 約10分              | パレス松洲  |
|           | 仙台空港  | アクセス鉄道17分         | 仙台駅    |



## まつしま パレス松洲

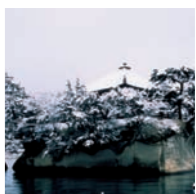
●チェックイン 15:00 アウト 11:00  
〒981-0215 宮城県松島町高城字浜38  
TEL/022-354-2106 FAX/022-354-4020  
E-mail/info@palace-matsushima.jp  
http://www.palace-matsushima.jp/



## まつしま パレス松洲



# 四季すべてを、



それぞれの趣で。

## 変わるもの、

## 変わらないもの

「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず…」

俳聖松尾芭蕉が「奥の細道」で得た俳諧の思想、「不易流行」。

書によると、「不易」永久不變の本質を忘れない中にも、

新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。【流行】新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

蕉風俳諧の理念として説かれたものですが、万事に当て

良きお風呂。一流でなくても当館の大きな不易です。幾度となくご利用いただいているお客様のためにも、変えてはいけないものとも思えます。

そして流行は、皆様から教えていただいております。私たちに求められるものは日々様々。そんなとき「相手を喜ばせたい」気持ちで皆様と向き合うことで、新たな流行が見えてまいります。料理も然り。食材や器は



## すべての支度は

## 「味道佛心」の志しと

## 「土産土法」の作法にて

料理長  
大鹿敦志

板前に憧れた幼少に「土産土法」という詞を覚え、高校時分に飛び込んだ板場で逢った師匠に、「味道佛心」の心意をいただきました。

いきいきとして鮮やかな食材は、その地に流るる水と、その地に伝わる手法で支度することと真に美味しい料理になるものと考えます。

そして、みやぎは「食材王国」。この地を築いた仙台藩祖伊達政宗公は「少しも料理心な

きはつたなき心なり」との詞を残すほどの美食家でありました。そんな伊達文化が息づくお国柄にあって、多くの美味しき馳走が生まれるのは必然です。

みちのくの豊かな自然をこまめに気持と、味への愛情を以て「味道佛心」の志しを絶やさず、由緒ある「土産土法」の作法にて、折々の季節や行事に相応しいお料理を支度いたします。お客様は、こころゆくまでご賞味ください。



## お客様へ

パレス松洲に「すべて」はございません。至らぬ点、はご承知おきいただき、ご理解を賜れば幸甚でございます。



◆防音対策は完全ではありません。廊下、隣室での大声、お子様の夜泣きなどが聞こえる場合がございます。皆様が快適にお過ごしいただけるよう、ご理解ご協力をお願いいたします。

海側です。抜群の景観をお楽しみいただくと自負しております。



## お食事

◆その日、その節に入手できる食材を使い、その時折に最適な支度を心がけています。そのため、事前にお献立をお伝えできませんが、「食べて美味しい食事」はお約束いたします。ご夕食は和食ベールのお膳料理です。なお、食品アレルギーのお客様は予めお申し付けください。

◆5名様以上でのお食事は個室です。畳部屋ですが正座の苦手な方や、女性にもお気兼ねなくお食事を楽しんでいただけるよう、お座敷でなく「テーブル式」も可能です。お気軽にお尋ねあわせください。

## その他

◆中央観光地からは、徒歩15分程と少し離れています。町内3駅を含め、おひとりでもご送迎いたします。お気兼ねなくお申し付けください。

- ◆客室数24室
- ◆大浴場
- ◆厚労省認可ヘルストン温泉
- ◆宴会場
- ◆松島の間「雄島の間」
- ◆「紅梅の間」「千賀の浦」
- ◆お食事処「みちのく庵」
- ◆「りらくコーナー」
- ◆（無料マッサージ機6台）
- ◆お土産処「かもめ屋」
- ◆会議室
- ◆「芙蓉の間」「黒松の間」

千二百年以上にわたって、日本人の憧憬と愛着を注がれつづけた松島。その眺望は、季節の情趣をみごとに映し出します。四季のある国に暮らすしあわせ、ここ松島で探してください。私たちは、そのお手伝いをいたします。



折々に違えども料理人が抱く「美味しさ」への想いは、懐かしくもある不易なる味を創り、そこへ流行の新味が交わって花咲き、誠実な美味しさとなります。

不易、流行。相反することばが表裏一体となり、万物の奥深さを教えてくれます。しかし近頃は不易の本質を見つめることをせずに、うわべだけの流行に右往左往されることが多い時世に感じられます。

支配人敬白